

学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ

中京大学スポーツ

Beyond

Vol. 32
2026 5月号

中京大勢がミラノでメダルラッシュ!

アスリートの愛用品

勝負を支える“こだわり”とは

全力キャンパスライフ

元サッカー部員の就活スケジュール

フィギュア同期対談

同じ時代を滑る3人の本音

ミラノで刻んだ栄光の軌跡

2月6日から22日までイタリアで開催されたミラノ・コルティナ五輪。中京大学の関係者から10選手が参加し、5人がメダルを獲得した。熱戦の跡を振り返る。

スノーボードビッグエア・スロープスタイル

中京大学学部生初の金メダル

スノーボード男子ビッグエアで、日本中が待ち望んだ歓喜の瞬間が訪れた。2月7日、昨季ワールドカップ(W杯)王者の木村葵来選手が、大逆転劇で日本勢今大会初となる金メダルに輝いた。

競技は3本中、上位2本の合計点で

争われる。1本目に89・00点の高得点をマークし首位発進したが、2本目で着地に失敗し4位へ後退。重圧のかかる最終3本目で大技「スイッチバックサイド1980(5回転半)」を完璧に成功させると、この日最高得点の90・50点を叩き出し、合計179・50点で一気に頂点へ駆け上がった。着地を決めた瞬間、両手を突き上げ、一度しゃがみ込んで喜びを爆発させた。

岡山県出身で、5歳からボードを履いた。「つらい



きむら きたら 選手
スポーツ科学部3年



©共同通信社

comment

今回のオリンピックで金メダル獲得できましたが、スロープスタイルでは悔しい思いをしました。4年後は、スロープスタイルとビッグエアの両方での金メダル獲得を目標に頑張っていきたいです。

と思ったことはない」と、中学時代から週末12時間の猛練習で才能を開花させた。気合を入れ直すため、トレッドマークの丸刈りをさらに短く刈り込んで挑んだ今大会。中京大70年超の歴史で、学部生による金メダル獲得は史上初の快挙だ。

フィギュアスケート

執念の銀！

2大会連続の表彰台

フィギュアスケート・男子シングルで、日本のエースが意地を見せた。2月13日に行われたFSで鍵山優真選手が北京五輪に続く2大会連続の銀メダルに輝いた。

首位を走っていた米国の4回転の神、イリア・マリニン選手を5・09点差で追う運命のFS。鍵山選手には譲れないこだわりがあった。4年前の五輪で出した自己ベストを超えるため「今の自分の全てを出し切る」と、大技4回転フリップの投入を宣言。冒頭

©共同通信社



かぎ やま ゆう ま 選手
スポーツ科学部4年

©共同通信社

のサルコデーバランスを崩し、続くフリップでも転倒する苦しい展開となったが、持ち味のしなやかで力強いスケートティングと華麗なステップで会場を魅了した。鍵山選手は4年前の銀メダルを、「フレッシュな銀」と呼ぶ。当時は先輩の背中を追い、のびのびと滑った結果の快挙だった。しかし、自らが日本を背負う立場となった今大会。ミスに硬い表情を見せる場面もあったが、最後は笑顔で観客席に手を振った。「悔しさは残るが、なんとか戦い抜けた」。団体の銀に続く今大会2個目のメダルを胸に、若きエースはさらなる高みを見据えている。

フィギュアスケート

日本ペア史上初の表彰台、金メダル獲得

2月16日に行われたフィギュアスケートペアのフリースケーティング(FS)で、リキリゆうこと三浦璃来選手・木原龍一選手組が庄巻の逆転劇を披露。日本勢初となるペアの表彰台を、最高の輝きを放つ金メダルで飾った。

前日のシヨートプログラム(SP)では二人が得点源と話す「リフト」でのミスが響き5位と出遅れたが、FSでは全ての要素で完璧なシンクロを見せ、フィニッシュの瞬間、会場は総立ちのスタンディングオベーションに包まれた。叩き出したスコアは世界歴代最高得点の158.13点。団体の銀に続く今大会2個目のメダルを、最も高い位置で手にした。

2019年のペア結成から、北京五輪7位、そして2023年には世界選手権、GPファイナル、四大陸選手権の主要3大会を全制覇する「年間グランドスラム」を達成。順風満帆に見えたが、今大会のSP後は絶望の淵にいた。「全部終わったと思った」と振り返る木原選手だが、支えたのはパートナーの三浦選手だった。「4年前とは立場が逆。今回はずっと助けてもらった」と木原選手は話した。不屈の絆でミラノの氷上に最高のドラマを描き、日本ペア悲願の金メダルがその胸に輝いた。



「4年前とは立場が逆。今回はずっと助けてもらった」と木原選手は話した。不屈の絆でミラノの氷上に最高のドラマを描き、日本ペア悲願の金メダルがその胸に輝いた。



みうりく
三浦璃来選手
2024年度
スポーツ科学部卒



きはりゆういち
木原龍一選手
2014年度
スポーツ科学部卒



©共同通信社

©共同通信社

フリースタイルスキー
モーグル・デュアルモーグル

新種目でライバルと激突、 2種目でメダル獲得

フリースタイルスキーモーグル界を牽引する堀島行真選手が、また一つ勲章を手にした。2月15日、今大会から採用された新種目男子デュアルモーグルで銀メダルを獲得。12日のモーグル「銅」に続く今大会2個目、自身通算3個目となる五輪メダルだ。

デュアルモーグルは2人並走でターン、エア、タイムを競う過酷なトーナメント。決勝の相手は、長年しのぎを削り、ライバルであるミカエル・キングスベリー選手(カナダ)だった。堀島選手は「楽しんで戦おう」と果敢にコブを攻めたが、雪面に足を取られ第2エアを飛ばす、惜敗。「滑りきれず悔しいが、相手の意地を見た」と、ライバルをたたえた。昨年3月に左膝靭帯を損傷する大けがを負いながら、過酷なりハビリを経てW杯総合首位で迎えたミラノ五輪。北京五輪以降、拠点をつくるウエーに移し、空中技「コーク1440」を磨き上げるなど、エアの強化に心血を注いできた。「目指す金メダルは4年後に持ち越し」。3個目のメダルを胸に、堀島選手は再び、頂点への歩みを始める。



ほりしまいくま
堀島行真選手
2020年度スポーツ科学部卒



©共同通信社



©共同通信社

ショートトラック

吉永一貴選手

よしながかずき

2021年度スポーツ科学部卒

平昌、北京に続き3大会連続出場。吉永一貴選手は、今大会全種目にエントリー。1500メートル個人3種目で準々決勝敗退、5000メートルリレーも7位に終わった。「3大会で一番滑れた」と手応えを語る一方、「今のラウンドを超えられないのが自分の位置」と世界の厚い壁を痛感。糧にして次を見据える。



©共同通信社

ショートトラック

平井亜実選手

ひらいあみ

2019年度スポーツ科学部卒

初五輪の平井亜実選手は女子3000メートルリレー、1000メートル、1500メートルに出場したが、世界の厚い壁に阻まれた。次なるステージでの飛躍を期す。



©共同通信社

ショートトラック

中島未莉選手

なかしまみれい

2022年度スポーツ科学部入学

初五輪の中島未莉選手は、3000メートルリレーに平井選手とともに出場しアンカーを務め6位。個人3種目と混合団体リレーでも上位進出を逃し「五輪のスピードに圧倒された。自分の甘さ」と涙を浮かべた。この悔しさを糧に、さらなる飛躍を誓う。



©共同通信社

カーリング

小野寺佳歩選手

おののでらかほ

2013年度体育学部卒

3大会ぶり2度目の五輪に挑んだ小野寺佳歩選手は、サードとして世界1位のスイスチーム撃破に貢献。予選敗退（2勝7敗）となったが「12年前にはない経験。苦しいつつ戦い抜き幸せ」と充実感を滲ませた。



©共同通信社

フリースタイルスキーハーフパイプ

松浦透磨選手

まつうらとま

2024年度スポーツ科学部卒

フリースタイルスキーハーフパイプの松浦透磨選手は、初五輪の緊張を力に変え、1回目をミスなくまとめると、続く滑走ではさらに得点を伸ばし意地を見せた。しかし、決勝進出ラインにわずか0.5点及ばず13位。惜敗にも「緊張を楽しめた」と収穫を語り、この僅差の悔しさを糧に4年後のメダル奪取へレベルアップを誓った。



©共同通信社

ミラノ・コルティナ五輪
パブリックビューイングを開催

ミラノ・コルティナ五輪に出場した堀島行真選手と小野寺佳歩選手を応援するパブリックビューイングが、2月12日に名古屋キャンパスで行われた。オープニングでは、スキー・スノーボード部の船渡裕太コーチと堀島選手と同じフリースタイルスキーモーグル選手の浅野志織さん（2025年度スポーツ科学部卒）によるモーグルの内容や堀島選手の強み、今回の試合の見どころの解説が行われた。カーリング女子日本代表のフォルティウスは、初戦のこの日、スウェーデンと対戦。小野寺選手のショットの場面では会場からも声援や拍手が起き、ショットが決まると会場はさらなる盛り上がりを見せた。試合は4-8で日本は初戦黒星スタートとなったが、会場からはフォルティウスの健闘をたたえる温かい拍手が送られた。

85・42の高得点で男子モーグル予選を1位通過した堀島選手は、この日の準決勝ではラストに登場。5位で決勝に進み、会場は大きな拍手に包まれた。決勝では大技のコークスクリュー1440を決め、スコア83・44をマーク。見事銅メダルを獲得した。メダルを獲得した瞬間、大きな拍手や歓声が響きわたった。



リーグ加入者プロフィール



ロアッソ熊本 加入

MF
な す けん いち
那須健一選手

2025年度現代社会学部卒
生年月日:2003年10月2日
出身地:兵庫県
出身高校:賢明学院高等学校
【選手コメント】
自分の特徴をしっかりと出して、ロアッソ熊本のために全力で戦います。



FC岐阜 加入

MF
や か び かな た
屋嘉比奏汰選手

2025年度スポーツ科学部卒
生年月日:2004年3月11日
出身地:沖縄県
出身高校:興國高等学校
【選手コメント】
ワクワクするようなプレーでFC岐阜の勝利、昇格に貢献できるよう頑張ります。



いわきFC 主務加入

ふ くい あ き あ
福井暁阿さん

2025年度スポーツ科学部卒
生年月日:2003年6月1日
出身地:静岡県
出身高校:藤枝東高等学校
【主務コメント】
感動と希望を与え続ける選手達を全力でサポートしていきます。



愛媛FC 加入

MF
む とう ひろし
武藤寛選手

2025年度現代社会学部卒
生年月日:2003年9月2日
出身地:岐阜県
出身高校:市立船橋高等学校
【選手コメント】
さらなる高みを目指して努力し、チームにも多くの貢献をできるような選手になりたいです。

男子サッカー部 Jリーグ加入

中京大学体育会サッカー部から、選手・主務として計4名がJリーグ2026シーズンから加入した。2025年12月3日、武藤選手、那須選手、屋嘉比選手の3名は内定報告のため大学首脳陣を訪問した。選手らはサッカー部として過ごした日々の振り返りや今後の意気込みを語り、梅村清英総長・理事長、学長はこれからの活躍に期待を込めたエールを送った。



アメリカンフットボール部EAGLES 全国大会でベスト8

中京大学アメリカンフットボール部EAGLESは、全日本大学アメリカンフットボール選手権大会に出場しベスト8に入った。前年度の結果によりシードを獲得し、2回戦からの出場。11月16日、美浜町運動公園陸上競技場で行われた試合で九州大学と対戦した。第1クォーターでは序盤に3点を先制されたものの、その後7点を奪い逆転。第2クォーターでは両チームが7点ずつを追加し、14-10で前半を折り返した。第3クォーターでは3点を取られたが、最終第4クォーターを粘り強く守り抜き、14-13で中京大学が勝利。準々決勝進出を決めた。当日は天候にも恵まれ、観客席には多くのEAGLESファンが駆けつけ声援を送った。



11月23日、パロマ瑞穂ラグビー場で行われた準々決勝では、関西学院大学と対戦した。試合前には選手とスタッフが円陣を組み学歌を歌い、スタンドの応援席からは「中京コール」が響きわたり会場の高まる熱気が感じられた。第1クォーターでは中京大学がタッチダウンを決めて先制。さらに第2クォーターでは伊藤啓人選手(スポーツ科学部3年)が後方から駆け上がりタッチダウンを決め、得点を重ねた。しかし、関西学院大学の攻撃に押され前半は14-35で終了。後半も互いに得点を奪い合う試合展開となったが、最終的に21-63で敗戦となった。

試合後、主将(当時)の鈴木満牙賞選手(2025年度スポーツ科学部卒)は、今回の試合の反省を述べつつ、「どのチームよりもたくさん練習し、一日一日を大切にしていきたい」とさらなる成長に向けた決意を語った。

今後も新たな目標に向けて挑み続けるアメリカンフットボール部EAGLESの活躍に注目したい。

アスリートの愛用品

プレースタイルに個性があるように、アスリートの愛用品にもその人らしさが出ます。日用品からスポーツ用品まで、選手たちのこだわりアイテムとエピソードを紹介します。



心身を守り、整える必需品

競技はほとんど外で行われるため、日差しが眩しくなってしまう陸上競技。主に夏の日差しは強く、体力の消費量が多くなってしまうため、必需品となっています。森下さんはこだわりのポイントを、「鼻当てがないことです。競技で走る最中にずれてこないため、使いやすいです!」と語ってくれました。

練習後に主に自宅や遠征先のホテルで使用するマッサージガン。高校時代、チームとして保有していたものと同じモデルを、大学に入ってから個人で購入した思い出のある品だそうです。



陸上競技部 主将
もりした あいり
森下愛梨選手(スポーツ科学部4年)



サングラス



マッサージガン

愛犬・リルちゃん



生活に欠かせない家族

原田さんは愛犬をピックアップ。去年の1月に原田さんの元へやってきた、「真っ白な体がかわいいです!」と語るメスのマルチーズです。名前は原田さんの母がつけたもので、フランス語で「笑う・笑顔」を意味する「Rire」からとったそう。リルちゃんについて、「とても人懐っこい性格で、練習が大変だったときや試合でうまくいかなかったときに癒やしてくれます。僕が落ち込んでると、それを察して横で寝てくれるんです」と教えてくれました。また、リルちゃんの特にかわいいと感じるシーンを聞くと、「遊んでほしいときに僕の足をちょんちょんって触ってくるのがかわいいです!」と嬉しそうに語ってくれました。心身の疲れを癒やし、リラックスさせてくれるリルちゃん存在が、原田さんのサッカーに対する原動力のひとつになっていることが伝わってきました。

サッカー部 主将
はらだ あゆむ
原田渉夢選手(現代社会学部4年)



バレーボール部キャプテンの

イチオシ選手!!

昨シーズン全日本インカレでベスト5となり、さらなる高みを目指す男子バレーボール部。
飛躍のキーとなるイチオシ選手をキャプテンに伺いました!

01 高校から大学への 環境の変化はどうだった?

(中京大学に入学した理由を聞かれて)ご縁があり推薦をいただけただので、自分を必要としてくれる場所でプレーしたいと思い入学しました。大学は部活動以外にも忙しく、練習時間が高校と比べて短くなったので、最初は本当に勝てるのか...?と思いました(笑)その分、自主練習や筋トレに充てる時間を増やして自分で練習を調整できるようになりました!



02 自分のプレーの 持ち味は?

サーブです!自分のサーブはスピードとパワーが特徴で、力強く得点を取ることができます。特に、昨シーズン秋リーグ最終戦の、岐阜協立大学との試合で、ピンチサーバーとして出場した時に発揮できたと感じています。チームの得点が23点とマッチポイントの時に連続でサーブを決めることができ、チームに勝利をもたらしました!



今シーズンの目標はレギュラーに入ることです!
チーム一丸となって、
試合に勝てるように頑張ります!

03 キャプテンとの 思い出深いエピソードは?

おすしを奢ってもらったことです。30皿くらい食べました。キャプテンも自分に張り合って20皿くらい食べていました。キャプテンとはいつも競い合っていますが、仲良くしてもらっています。最後に高いデザートを2個食べました!



04 中江礼選手 (スポーツ科学部2年)

目標としている選手は?

キャプテンの岸田颯太選手です。とにかくポジティブで、調子のいい時も悪い時も大きな声を出してプレーできるところを尊敬しています!ポジティブさの根源が何なのか聞いてみたいです(笑)

キャプテンからの言葉



かしだ そうた
岸田颯太選手
キャプテン
(スポーツ科学部4年)

(取材時)1年生ながらもピンチサーバーで入り、スピードのあるサーブを打って得点に変えてくれます。ここぞという時に結果を残せる彼がかっこよと感じたため推薦しました!サーブ力だけではなく生意気だけかわいいところも魅力です(笑)また最近筋トレを頑張っているため、どこまで体を作ってくるかにも注目ですね。

バレーボール部の今シーズンの目標!

東海リーグ優勝、西日本インカレ優勝、
全日本インカレベスト4です!
課題を一つ一つ乗り越えて、互いに
支えあいながら成長し、勝ち切れる
チームを目指します!

全カ キャンパスライフ

就活をしながら部活と授業をこなす大学生の一日に密着しました。
忙しいながらも、全力で取り組む姿に注目です。



就活スケジュール

- 9月～12月
インターンや説明会
(1週間に4日ほど)
- 1月～5月上旬
企業面接(ほぼ毎日)
初めての内々定は
1月下旬頃でした



元サッカー部所属
保険会社勤務

たか はしりょう た
高橋亨太さん
(2025年度スポーツ科学部
競技スポーツ科学科卒)



私の就活の期間と就活を
しながら授業と部活をする
一日を紹介します!

授業・部活・就活すべてある日のスケジュール

Point

両立するために
スケジュール管理が大事!

授業や部活にもしっかりと参加するため
にアプリを使い、丁寧にスケジュールの
管理を行いました。



Point

午前は就活、午後に授業と部活!

午前と午後に行うこと
を分けることでメリハリ
をつけ、何事にも全力
で取り組むことを意識
しました。



8:00 ... 起床



10:00-12:00 ... インターン・
説明会



13:30 ... 授業(3限)

15:10 ... 授業(4限)

Point

就活や部活があるため
アルバイトは遅い時間に!
午後練終了後にアルバイトへ!!
翌日が急に朝練に変更になる
こともあり大変でしたが頑張りま
した。

18:30-20:30 ... 部活

21:00- ... アルバイト

1:00 ... 就寝





愛知に刻まれたスポーツの記憶

愛知のスポーツ文化史

春のセンバツの愛称で知られる「選抜高等学校野球大会」。阪神甲子園球場が馴染み深いですが、その第1回大会の開催地は、実は名古屋キャンパスの所在地「八事」である。また、大学三大駅伝の角を占める「全日本大学駅伝対校選手権大会」は本学の初代学長である梅村清明学長が、大会の創設に尽力したという。右下の絵は、梅村清明学長が終着点の伊勢神宮を描いたものである。このように、たどれば奥深い歴史が広がる愛知のスポーツ文化を紹介する第16回企画展「愛知に刻まれたスポーツの記憶」が3月21日から中京大学スポーツミュージアムで開かれている。今回は同展示を紹介すべく、ミュージアムの富田幸祐学員にお話を聞いた。企画展で苦労した点について「メイン展示である愛知のスポーツ史跡マップの制作」と語った。学芸員1人では困難を伴う作業であったことから、現代社会学部の学生たちが授業の「環」として参加した。さらに技術面では「伝えたい情報を、文字のサイズ、字数的にバランスよく集約させることに注力した」と明かした。そして、同展示の開催背景であり、愛知の最新スポーツイベントであるアジア競技大会について、富田学芸員は「五輪やW杯のような大規模大会ではなく、地域という身近な視点からスポーツ文化を捉え直す絶好の機会——その意義は展示で伝えたいことの一つ」と期待の声を寄せた。



とみた ゆきお
富田幸祐学芸員



注目を寄せるアジア・アジアパラ競技大会

第20回アジア競技大会が、2026年の9月19日から10月4日まで、愛知・名古屋を中心に開催される。アジアのスポーツの発展や、友好と平和の促進への貢献を目的としたアジア最大級の総合スポーツ大会で、今大会では、オリンピック競技に加え、武術太極拳やeスポーツなども含む計41競技が実施される予定だ。続いて、10月18日から24日まで、第5回アジアパラ競技大会も行われ、18競技が実施される予定となっている。いずれも45の国と地域からアスリートが参加する見込みで、日本選手の活躍にも期待が高まっている。

愛知に刻まれたスポーツの記憶

- 開催期間 3月21日(土)～7月4日(土)
- 開催日 火曜日～土曜日
- 開催時間 10時～17時
- 閉館日 (最終入館受付 16時)
- 入館料 無料
- 入館日 月曜日・日曜日 祝日
- 開催場所 中京大学スポーツミュージアム (豊田キャンパス内)



アスリートを支える人たち

「最高の立場」で チームメイトとともに掴んだ栄光

日本学生野球協会より表彰(第58回令和7年度表彰選手)を受けた、硬式野球部・学生トレーナー(以下トレーナー)の岩崎開登さん(2025年度スポーツ科学部卒)を取材。トレーナーという立場での唯一の表彰選手である岩崎さん。その普段の活動内容を聞いた。

表彰を受けた際の率直な気持ちについて「びっくりしました。選手が表彰されるものだと思っていたので、トレーナーという存在を見てくれたことが嬉しかったです」と語ってくれた。

大学入学前から「中京大学でトレーナーをしたい」と考えていたと言い、自身が高校球児のころ、理学療法士やメンタルケアといった「支える側」の人たちと多く



関わったことが、アスリートを支える立場を志すきっかけになった。「人のために動くことは昔から好きでしたし、大好きなスポーツに関わることもできる活動です。トレーナーを志したときからずっと最高の立場だと思っています」と笑顔を見せた。

岩崎さんはトレーナーとして、選手のけがからのリハビリ、トレーニング、治療・ケアという大きく3つの仕事を全てこなす。その中で、アップやトレーニングなどのメニューは全て学生トレーナーが作成する。「アップひとつをとっても、自分の在籍した4年間でどんどん変えていきました。自分の思う一番いいアップが更新されていって、最後にはベストまでたどり着けたと思います」と語る。また、試合中の役割はけがの救急処置やアイシング、マッサージなどの選手のケア。ベンチ裏で試合を見つつ、インングを終えた投手の肩や肘の状態を捉え、選手が無理をしないようけがをする前に指導者に伝えるなど、逐一判断を行っている。

大人のトレーナーが在籍しない中京大学の硬式野球部で、プロチームとほぼ変わらない仕事をこなす岩崎さんだが、その知識の出どころはとても広い。入部当時はトレーナーの先輩がほとんどおらず、何から手を付けようか迷っていたそうだが、ここで岩崎さんの行動力が光った。「治療やトレーナーのことに、自分からいろんな大人に話を聞きに行きました。実際にプロの世界で治療やトレーナーをしていた人たちを自分で調べに

硬式野球部 学生トレーナー

岩崎開登さんインタビュー

調べて、より実践的な知識を身につけに行きました」と話す。大人の方々も岩崎さんの活動を応援し、温かくサポートしてくれたことが印象的だったと教えてくれた。

トレーナーとして意識していることについては、「いつでも相談してもらえような、話しやすい関係性をつくることはずっと意識していますし、野球だけの関わりではなく、大学を含めた日常生活でも選手と

関わり続けようとしています。選手にけがをさせないことが大前提なので、「コミュニケーションをとりながら選手の間をこまめに引き出して、一緒に取り組もうというイメージです。少しでも危ないと思えばすぐ止めたり、違う方法を考えたりするので、自分の時間は全部選手のために使おうと思っています。一瞬で4年間が過ぎてしまいました」と振り返った。その献身性は計り知れない。

今回の取材を通して、岩崎さんが繰り返して口にしてきたことが「選手がいなければ、トレーナーとしての活動もありません。今回、表彰を受けられたことは本当に選手のおかげなので、みんなに感謝しています」というチームメイトへの感謝だった。選手やスタッフが一体感を持って行ったチーム作りに対して、謙虚に構える。今後アスリートを支えていくその手腕に注目していきたい。



詳しくはこちら



UNIVAS AWARDS



西小野皓大さん

西小野さんの
詳しい記事はこちら!
他の方々の
取材記事も
順次公開予定



UNIVAS AWARDS
2025-26は、大学スポーツで活躍した学生や指導者、団体をたたえる、一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)が選定する賞のこと。競技成績だけでなく、学業との両立や模範的な活動、大学スポーツの発展への貢献なども鑑みて総合的に評価し、優れた取り組みを広く紹介することを目的としている。

チームBeyond

大学スポーツプロモーター
優秀取組賞入賞

学生広報スタッフ「ライト」が制作している大学公式スポーツ誌「Beyond」。年に2回発行する「Beyond」は、全ページを学生広報スタッフ「ライト」が企画から取材撮影、校正までを貫いて手がける。大学所属アスリートの活躍を最前線で取材できる環境を強みに学生主体で活動する。読者目線に立ち、学生ならではの視点で届ける情報は、読者全員が楽しめるよう細部にまでこだわっている。



大島かれんさん

おほしま
2025年度スポーツ科学部卒
ウーマンオブザイヤー入賞

自分の課題と向き合い続けたテコンドーの大島選手。「素晴らしい賞をいただけて光栄」と語る。競技に取り組むなら必ず1番にという強い思いで自分自身を見つめなおす時間を設けるなど苦しい時期も乗り越えてきた。この賞に満足することなく、さらに高みを目指して努力する大島選手に注目したい。



西小野皓大さん

にしおのこうだい
マン・オブ・ザ・イヤー 優秀賞

2025年度スポーツ科学部卒

今回の受賞を受け「素晴らしい方ばかりの中での優秀賞の受賞となり、選んでいただけて光栄だ」と笑顔を見せた。水泳部の西小野選手は4年間の競技人生を色々な経験ができた振り返り、4年かけて自分の長所を理解して磨き、良さを最大限に引き出せるよう努力を続けた。支えてくれる人や志の高い仲間と共に努力した4年間、並ならぬ努力の継続が、4年目の飛躍に繋がったという。日々の練習メニューはコーチと相談しながら決めることもあるそうで、4年かけて分かった自分の良さを引き出せる練習を続けている。また教職課程も履修しており、勉学にも打ち込んだ。学業



と両立しながら水泳も力を入れて練習に励んだ。練習も試合も上手いはず、日に日に目標から遠ざかる悔しい時期もあったが、支えてくれる仲間とも二度水泳を楽しむことから始め、どんな調子を取り戻していった。仲間と切磋琢磨しながら高め合い、大学水泳という4年間でしか味わえない楽しさが詰まった経験を明瞭に見据え、努力を続ける西小野選手の今後の躍進に期待したい。

大石和佳奈さん

おおいしわかかな
2025年度経営学部卒
サポーターイングスタッフ・オブ・ザ・イヤー(女子)入賞

学生広報スタッフ「ライト」としてスポーツ広報に奮闘した大石さん。「学生だからこそ伝えられるもの」を意識し、1年以上継続して硬式野球部を取材した。可能な限り大会に足を運び、日々の変化や取材での発言を丁寧に記録することで部との信頼関係を構築し、2025年プロ野球ドラフト会議関連のSNS総閲覧数は100万回を超える反響となった。



吉次彩恵さん

よしつぐきえ
2025年度スポーツ科学部卒
サポーターイングスタッフ・オブ・ザ・イヤー(女子)入賞

「4年間積み重ねてきた努力や葛藤、仲間への思いを残してもらえて幸せ」と語る卓球部の吉次さん。監督や仲間への感謝と恩返しを原動力に誇りを持って取り組む姿勢がチームを根底から支えることに従事。感謝の気持ちを胸にどんな役割でも全力で向き合い続けた吉次さんはこれからも相手を思い行動していく。



川戸彩羽さん

かわといろは
2025年度経営学部卒
サポーターイングスタッフ・オブ・ザ・イヤー(女子)入賞

「今年度の頑張りが形として評価してもらえて嬉しい」と語る川戸さん。アメリカンフットボール部とトレナー部会「GET」との両立、その中で代表として、楽しい「一心」で走り抜いたそう。組織を支え、より高みを目指し奮闘した1年、振り返ると同じ志を持つ仲間との絆や感謝で溢れていた。





フィギュア同期対談

かわ べ ま な ま つ い け り の よ こ い ゆ
スケート部に所属する河辺愛菜選手、松生理乃選手、横井きな結選手に対談インタビューを行いました。
いずれもスポーツ科学部4年の同級生である3人の素顔に迫ります。



横井きな結選手



河辺愛菜選手



松生理乃選手



Q1 今シーズンの振り返り をお願いします！

松生 世界や日本のトップ選手との差を感じたシーズンでした。インカレは3人が出ることで嬉しかったです。ミスもあつたんですけど、悔しいながらも成績をしっかりと残せたことはよかったです。

河辺 練習を通して成長を感じたシーズンだったんですけど、その成果を試合で出せないもどかしさを感じました。結果だけ見ると悔しいシーズンでしたが、インカレでトリプルアクセルを成功させることもできました。成長につながる1年になったと思います。

横井 一昨年のけがが完治していない状態から焦らず戻していくことができて、ベストパフォーマンスが形になってきたと思います。試合や課題に対しての向き合い方は改善できてきたんですけど、ここぞというときに自分の弱い部分が出てしまったので、来季に活かしていきたいと思っています。



Q2 それぞれ尊敬するところ、好きなところはありますか？

松生 2人とも、どんな状況でもできることは絶対にやり通すし、練習に向き合う姿勢が私のお手本です。競技以外の部分でも、落ち込んだときに支えてくれて……なくてはならない存在です！笑

河辺 (松生) 理乃ちゃんは自分にない繊細さというか、自分とは真逆だと感じるのので、理乃ちゃんのスケートが大好きだし上手だなと思います。きんきん(横井選手)は「全力！」みたいな笑

横井 褒めてる!? 笑
河辺 自分はその時のメンタルが演技に影響してしまうことがあるんですけど、きんきんはそれを全然感じさせないところはすごいなと思います。

横井 理乃ちゃんは競技もそれ以外の面でも、同じことを一定に継続してできることを尊敬しています。トップ選手に共通することなのかと思ってます。(河辺) 愛菜ちゃんはスケートに対する強い気持ち、絶対になくならなくて、そういう気持ちは維持することの大変さはわかるので、すごいなと思います。



Q3 来季に向けての オフシーズンの過ごし 方を教えてください！

松生 学生最後のシーズンとして、競技を続けるにしても引退するにしても区切りのシーズンになるので、後悔がないように練習なども見直さないといけないのかなと思います。また、将来どんな仕事をしたいかを考えるようになりました。競技とともに培った言語能力も役に立つのかなと思います。

河辺 同じく区切りのシーズンになると思うので、引退までに絶対に使うと小さい頃から決めていた曲をやるのがすごく楽しみです。全日本選手権で最高の演技をして、自分の代表作のようなものを作りたいです。

横井 スケートに全力投球したいです。今まで積み上げてきたものをすべて出し切って、周りの方々に「こんな力を持っていたんだ」と思ってもらえるような成績を残すために、来シーズンをベストな状態で迎えられるようにオフシーズンを頑張っていきたいです。

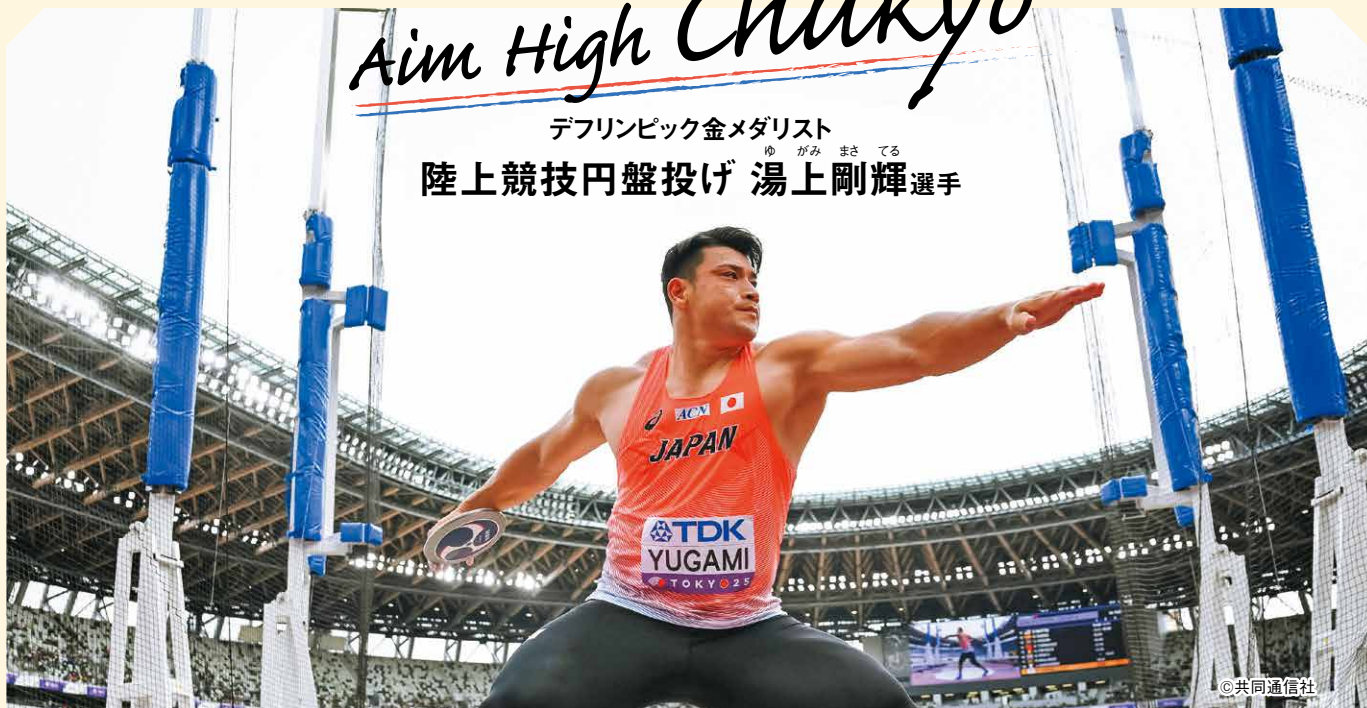


対談の続きはこちら

Aim High Chukkyo

デフリンピック金メダリスト

湯上剛輝選手 ゆがみ まさてる



©共同通信社

大躍進の昨シーズンから、

第二の故郷で日の丸を背負う一年へ

東京デフリンピックの円盤投げで金メダルに輝いたのは、中京大学OBの湯上剛輝選手(2015年度スポーツ科学部卒)。デフリンピックとは、聴覚障害のあるアスリートが集う、スポーツの国際大会である。

湯上選手が円盤投げを始めたのは、高校1年生の時である。小学生の頃から短距離種目をしてきたが、中学校の卒業間際に、学校の器具庫に置いてあった円盤をたまたま投げてみたら遠くへ飛んで行ったことが、円盤投げに興味をもつきっかけだったそうだ。

競技を始めた頃は世界を視野に入れていたわけではなかったが、中京大学で練習を重ねる中で、「大学卒業後も円盤投げを専門として競技生活を送れるかもしれない」と思うようになった、と言っ。2017年のトルコデフリンピックで銀メダルを獲得すると、国内のみならず、世界の大会でも頭角を現すようになった。

そんな湯上選手にとって、昨シーズンは大躍進の1年となった。4月に7年ぶりに自己ベストを更新すると、同月にさらにその記録を更新し、64m48の、日本新記録をマークした。9月に東京で行われた世界陸上に出場、10月に地元滋賀で行われた国民スポーツ大会で優勝。そして11月に東京デフリンピックで優勝、金メダルを獲得した。

湯上選手にとって、デフリンピックは感慨深い大会ともいえる。初めて出場した2017年のトルコデフリンピックでは惜しくも銀メダル、出場予定だった2022年のカシマス・ド・スルデフリンピックでは、トラブルがあり出場を辞退した。連戦の中迎えた東京デフリンピック。「表彰台の上で君が代を聴いたことは、これまでの悔しさを晴ら

すことができ、忘れられない場面になった」と振り返った。

今シーズンは愛知県で日本陸上競技選手権大会と、アジア競技大会が開かれる。大学時代から数年前まで、拠点を中京大学に置いていた湯上選手にとって、愛知県は第一の故郷である。アジアのオリンピックとも言われるアジア競技大会に出場するためには、日本選手権で順位と記録の両方で良い結果を出す必要があり、厳しい選考を勝ち抜かなければならない。第一の故郷で良いシーズンにするためにも、日本選手権に照準を合わせて、アジア競技大会に繋げていきたい、と今シーズンの意気込みを語ってくれた。

「円盤投げの競技の魅力はその奥深さにある」と湯上選手はいう。「科学的に理想的な動きはあるが、それが必ずしも記録に繋がるわけではなく、競技自体にイレギュラー性がある。それでも自分にとって理想的な投げを追究していくことがとても面白い」と。

「選手としてのキャリアは、年齢を考えるとどこまで目指せるのか分からない。それでも限界が来るまでは、来るアジア競技大会、ロサンゼルス五輪を見据えて円盤投げという競技を追究し続けたい」と今後の展望について語った。長年の夢だった世界陸上への出場、デフリンピックでの金メダルを叶えても、湯上選手の円盤投げへの挑戦が終わることはない。

profile

湯上剛輝選手

1993年4月生まれ。中京大学卒業後、トヨタ自動車に所属。生まれて間もなく先天性難聴と診断され、小学6年時に人工内耳の埋め込み手術を受ける。2025年12月には豊田市のスポーツ栄誉賞、第9回日本パラスポーツ賞大賞が贈られた。



中京大中京高校 News

News

硬式野球部

5年ぶり33回目のセンバツ甲子園でベスト4

第98回選抜高等学校野球大会(以下、センバツ)へ東海地区代表として出場した硬式野球部。今大会への出場は5年ぶり33回目、出場32校の中では最多の出場回数を誇る。

出場が決定した時の気持ちについて高橋源一郎監督は、「練習もセンバツやその先を意識してやっているが、現実的に名前が呼ばれると身が引き締まり、部員たちもそういう顔つきになってるので、当然嬉しい気持ちになった」と振り返る。

冬の間のトレーニングでは、体づくりに重点を置いて取り組んだ。これは昨秋の明治神宮大会を通じて部員たちが見つけた課題の一つで、パワーアップを図るために部員が意欲的に取り組んだそう。具体的にはウエイトトレーニングを重点的に行い、昼食の回数を2回に増やすなどして体づくりを強化した。これにより体重が増加し、バッターは長打が増え、ピッチャーは投げる球の質が向上した。

チーム内の雰囲気について荻田翔惺主将(3年)は、「明治神宮大会の初戦で負けたリベンジをしたいという気持ちがある。センバツに向けてとてもいい雰囲気練習できている」と話した。また、高橋監督は「素直な選手が多い印象。聞く耳を持っており、多くのことを吸収してくれる。そういった部分が

粘り強さにつながり、試合でも自分たちのいいところを出せている」と評価した。

センバツへの意気込みについて、高橋監督は「昨年は明治神宮大会まで行って、そこで悔しい思いを選手たちはしている。この冬を越えて身につけてきたことをセンバツで発揮したい。初戦を勝ち切り、流れに乗っていききたい」とした上で、「もちろん目標は優勝して日本一になること。高いところを見ながらも一歩一歩練習を積んで、自分たちの力を出し切り」と話した。荻田主将は「チームとしての目標は優勝することで、個人としては4番打者として、勝負強いバッティングができるようになりたいと思う」と、自身の活躍も目標に入れ意気込んだ。

3月19日、阿南光高校との初戦で松田知輝選手(2年)が今大会第1号のホームランを放つと、続く24日の帝京高校との2回戦でも荻田主将が2ランホームランを放つなど強力な打線が光った。一方、投手陣は安藤歩叶選手(3年)や太田匠哉選手(3年)が各試合で好投をみせ、5年ぶり15度目のベスト4入りを果たした。またセンバツでの通算勝利数も、史上最多の61勝を数え、高校野球史に新たな足跡を刻んだ。

次の目標は夏の甲子園出場を掲げ、硬式野球部は目標達成に向け鍛錬を続ける。

第98回選抜高等学校野球大会 中京大中京の戦績

日程	対戦校	試合結果
一回戦(3月19日)	阿南光高校(徳島)	3-1 勝利
二回戦(3月24日)	帝京高校(東京)	9-4 勝利
準々決勝(3月27日)	八戸学院光星高校(青森)	2-1 勝利
準決勝(3月29日)	智弁学園高校(奈良)	1-2 敗戦

ベスト4

News

日本一のその先へ

進化を止めないダンス部の軌跡

2025年、中京大中京高校ダンス部は快進撃を続けた。9月に開かれたダンスの高校日本一を決める「第18回日本高校ダンス部選手権」では、2~12人制で行われるヌモールクラスで初優勝を飾った。この大会に続き、大晦日の生放送番組「新しいカギ」内のダンスコンテスト「カギダンススタジアム」でも、お笑い芸人ハナコ・岡部大さんとタッグを組み、初出場にして頂点に立った。高校生ダンスサーたちが芸能人とタッグを組み、日本一の座をかけて競い合う番組で、審査員5人から満点に近い評価を受け優勝を果たした。部員をまとめたのは、2年生で部長を務める高橋沙和さんだ。

幼少期からダンスに打ち込み、「ダンス部のために中京大中京高校を選んだ」と話す。全国制覇という看板を背負って挑んだ「カギダンススタジアム」では、直前のリハーサルまで不安が漂っていたが、本番ではそれを跳ね除ける圧倒的な一体感を披露。最高の結果を手にした瞬間、それまでの苦労は「頑張つてよかった」という確信に変わった。

ダンス部の強みは、部員一人ひとりの「自主性」にある。コーチの指導が月に



次なる目標は、日本高校ダンス部選手権の連覇。王者としての誇りを胸に、彼女たちの挑戦は終わらない。



高橋沙和さん



編集後記

ライトのHPはこちら



あおき じょう
青木 晟 (総合政策学部4年)

今回はアスリートの試合結果のみでなく、インタビューや対談形式での取材などを行いました。取材を通して、アスリートの「オン」の姿だけではなく、一学生としての「オフ」の姿も見ることができ、とても有意義な記事になったと思います。



かきぞえ ことほ
垣添 琴葉 (国際学部4年)

2026年はミラノ五輪から始まり、中京大生の輝かしい活躍に心を打たれました。その熱気を受け、ライトメンバーもより思いを込めてこの一冊を仕上げました!ぜひ隅々までご覧ください!

取材で語られた言葉のニュアンスを崩さず、ありのままを形にできるよう心を込めて、担当箇所の執筆をしました。記事を通して、選手の等身大の魅力や新たな一面が伝われば幸いです。



かす や み う
糟谷 美羽 (文学部4年)

それぞれの思いを胸に戦ってきた選手やチームの活躍に触れることで、応援したいと思うきっかけになればと考えて制作しました。その一端を少しでも感じていただければ幸いです。



あお や ま も も
青山 未夢 (2025年度文学部卒)



う と あ い な
宇都亜衣菜 (文学部3年)

Aim High Chukyoで特集した湯上選手ですが、在学中、学内施設のフィットネスジムに通いつめていたため、フィットの鬼と呼ばれていたそうです。私も湯上選手のように鍛錬を積み、執筆の鬼と呼ばれたいものです。

さまざまな現場取材して、多くの方々との対話をしていく中で少しでもその方々の思いが伝わる記事にすることを心がけて作成しました。今年はアジア大会も開催されるのでよりスポーツに注目をしていきたいです!



み か み けい き
三上 祐輝 (現代社会学部2年)

今回の「全力キャンパスライフ」は、就活をしながらも部活と授業を両立できることを伝えたくて制作しました。中京大学の学生がどのような生活をしているのか参考になれば嬉しいです。



くわ ぼ ら い っ き
桑原 一貴 (2025年度経済学部卒)

チューグルを探せ!

「Welcomeチューグル」がページの中に隠れています。

チューグルを見つけてアンケートにお答えいただいた方の中から、**正解した5名様**に抽選でチューグルグッズをプレゼントします!

こちらからご回答いただけます



回答期間:2026年4月24日(金)~2026年5月31日(日)

同じポーズの「Welcomeチューグル」を見つけてね!

CHUKYOイーグルマスコットキャラクター「チューグル」



中京大学スポーツ振興部のSNSもチェック!



Instagram



Facebook



X



Youtube

Beyondはデジタルブックでもご覧いただけます



こちらから